

1 [2012 駒澤大]

空間における点 P の座標を (5, -6, 2) とするとき、点 P と x 軸に関して対称な点の座標は $\begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$ であり、点 P と yz 平面に関して対称な点の座標は $\begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$ であり、点 P と点 (2, -1, 5) に関して対称な点の座標は $\begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$ である。

2 [2007 立命館大]

xyz 空間において、点 (3, 5, 6) を通り、ベクトル $\vec{u} = (1, 2, -1)$ に平行な直線と yz 平面との交点の座標を求めよ。

3 [2011 東京都市大]

空間の3点 A (3, 2, 6), B (5, -1, 4), C (x, y, 0) が同一直線上にあるとき $x = \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$, $y = \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$ である。

4 [2008 関西大]

座標空間内に、4点 O (0, 0, 0), A (1, 1, 0), B (0, 1, 0), C (1, 1, 1) がある。 $\triangle OAC$ の重心を G とするとき、線分 GB を 1 : 2 に内分する点 P の座標を求めよ。

5 [2014 駒澤大]

$\vec{a} = (1, 1, -5)$, $\vec{b} = (2, 1, 1)$, $\vec{c} = (-1, 0, 1)$ のとき、 $(1, 2, -2) = \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix} \vec{a} + \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix} \vec{b} + \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix} \vec{c}$ である。

6 [2015 芝浦工業大]

空間の3点 O (0, 0, 0), A (1, 0, 1), B (0, 1, 2) について、 $\cos \angle AOB = \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$ であり、 $\triangle OAB$ の面積は $\begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$ である。

7 [2007 東京電機大]

空間の3点 L (2, 1, 0), M (1, 2, 0), N (2, 2, 1) に対して、 $\angle LMN$ の大きさを求めよ。

8 [2008 青山学院大]

2つのベクトル $\vec{a} = (t, t+1, t+2)$, $\vec{b} = (1, t+1, 2t+1)$ が直交するのは $t = \begin{matrix} \square \end{matrix}$ のときである。

9 [2013 北里大]

ベクトル $\vec{a} = (x, 11, 2y)$, $\vec{b} = (x-4, 2, y-6)$ を考える。 \vec{a} と \vec{b} が平行であるとき、実数 x, y の値を求めよ。また、 \vec{a} と \vec{b} が垂直であるとき、実数 x, y の値を求めよ。

10 [2010 横浜市立大]

空間における3点 O (0, 0, 0), A (1, 0, 1), B (0, 1, -1) について、次の問いに答えよ。

- 2点 A, B 間の距離を求めよ。
- 三角形 OAB の面積を求めよ。
- 三角形 OAB の外接円の半径を求めよ。

11

2つのベクトル $\vec{a} = (6, -1, -4)$, $\vec{b} = (-6, 3, -4)$ に垂直な単位ベクトルを求めよ。

12 [1999 神奈川大]

ベクトル $\vec{a} = (-1, -1, -1)$, $\vec{b} = (1, 2, 3)$ について、 $|\vec{a} + t\vec{b}|$ を最小にする t の値を求めよ。

13 [2015 小樽商科大]

四面体 OABC において、辺 AB の中点を D, 辺 BC を 2 : 1 に内分する点を E, $\triangle OAC$ の重心を F, $\triangle DEF$ の重心を G とする。そのとき、 \vec{OG} を \vec{OA} , \vec{OB} , \vec{OC} で表せ。

14 [2012 北里大]

平行六面体 ABCD-EFGH において、辺 CG の G を越える延長上に $CG = 3GP$ となるように点 P をとり、直線 AP と平面 BDE の交点を Q とする。このとき、

$$2\vec{AP} = \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix} \vec{AB} + \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix} \vec{AD} + \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix} \vec{AE},$$

$$\vec{AQ} = \begin{matrix} \times \\ \square \end{matrix} \vec{AB} + \begin{matrix} \times \\ \square \end{matrix} \vec{AD} + \begin{matrix} \times \\ \square \end{matrix} \vec{AE} \text{ となる。}$$

15 [2012 東京都市大]

2点 A, B を結ぶ線分 AB を 1 : 4 に外分する点を C とする。点 A, B, C の位置ベクトルをそれぞれ $\vec{a} = (-1, 2, -5)$, $\vec{b} = (x, y, 1)$, $\vec{c} = (-2, 3, z)$ とするとき、x, y, z の値を求めよ。

16 [2015 立教大]

座標空間における4点 A (1, 0, 0), B (0, 2, 0), C (0, 0, 3), D (x, 4, 5) が同一平面上にあるとき、 $x = \begin{matrix} \square \end{matrix}$ である。

17 [2003 宮城大]

四面体 OABC において、 $OA = OC$ であるとする。更に、BC を 1 : 2 に内分する点を D, AD を 3 : 1 に内分する点を E とするとき、 $OE \perp AC$ であるとする。また、 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$, $\vec{OE} = \vec{e}$ とおく。

- \vec{e} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表せ。
- $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c}$ であることを示せ。ただし、記号 $\vec{x} \cdot \vec{y}$ はベクトル \vec{x} と \vec{y} の内積を表す。
- $OA : OB = 2 : 1$, $OE \perp BC$ であるとき、 $\angle AOC$ を求めよ。

18 [2003 静岡大]

座標空間内に四面体 OABC があり、 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とする。 $0 < t < 1$ を満たす t に対し、辺 OB, OC を t : (1-t) の比に内分する点をそれぞれ K, L とし、辺 AB, AC を t : (1-t) の比に内分する点をそれぞれ M, N とする。

- 四角形 KLMN は平行四辺形であることを示せ。
- \vec{KL} , \vec{KM} のなす角を θ とするとき、 $\cos \theta$ を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表せ。
- $\vec{a} = (2, -1, 0)$, $\vec{b} = (1, 2, 0)$, $\vec{c} = (-1, 1, 2)$ とするとき、平行四辺形 KLMN の面積を t を用いて表せ。

19 [2003 星薬科大]

四面体 OABC において、 $OA = 3$, $OB = 4$, $OC = 5$ で、 $\angle AOB$, $\angle AOC$, $\angle BOC$ はそれぞれ 60° をなしている。このとき、辺 BC の長さは $\begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$ である。次に、頂点 O から辺 BC へ垂線 OP を下ろすとき、 $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とおくと、

$$\vec{OP} = \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix} \vec{b} + \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix} \vec{c} \text{ と表される。したがって、} |\vec{OP}| = \begin{matrix} \times \\ \square \end{matrix} \text{ となる。}$$

また、頂点 A から面 OBC に垂線 AQ を下ろすと、 $\vec{OQ} = \begin{matrix} \times \\ \square \end{matrix} \vec{b} + \begin{matrix} \times \\ \square \end{matrix} \vec{c}$ と表される。

したがって、 $|\vec{AQ}| = \begin{matrix} \times \\ \square \end{matrix}$ となるので、四面体 OABC の体積は $\begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$ となる。

20 [2003 自治医科大]

O を原点とする座標空間に、3点 A (2, 2, 3), B (0, 1, 1), C (-3, 5, 8) がある。

- \vec{OA} , \vec{OB} , \vec{OC} の相互の内積は

$$\vec{OA} \cdot \vec{OB} = \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}, \vec{OB} \cdot \vec{OC} = \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}, \vec{OC} \cdot \vec{OA} = \begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$$

である。

- 点 C から3点 O, A, B を通る平面へ下ろした垂線の足を H とすると、CH が

$$\vec{OA}, \vec{OB} \text{ と垂直であるから、} \vec{OH} = \begin{matrix} \times \\ \square \end{matrix} \vec{OA} + \begin{matrix} \times \\ \square \end{matrix} \vec{OB} \text{ と表される。}$$

- CH の長さは $\begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$ 、三角形 OAB の面積は $\begin{matrix} \times \\ \square \end{matrix}$ であるから、四面体 OABC の体積は $\begin{matrix} \uparrow \\ \square \end{matrix}$ である。

21 [2000 札幌医科大]

四面体 OABC を考え、 $\vec{a} = \vec{OA}$, $\vec{b} = \vec{OB}$, $\vec{c} = \vec{OC}$ とする。また、線分 OA, OB, OC を 2 : 1 に内分する点をそれぞれ A', B', C' とし、直線 BC' と直線 B'C の交点を D, 3点 A', B, C を通る平面と直線 AD との交点を E とする。

- \vec{OD} を \vec{b} と \vec{c} で表せ。
- \vec{OE} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} で表せ。

22 [1999 大分大]

四面体 ABCD において、線分 BD を 3 : 1 に内分する点を E、線分 CE を 2 : 3 に内分する点を F、線分 AF を 1 : 2 に内分する点を G、直線 DG が 3 点 A、B、C を含む平面と交わる点を H とする。 $\vec{b} = \overrightarrow{AB}$ 、 $\vec{c} = \overrightarrow{AC}$ 、 $\vec{d} = \overrightarrow{AD}$ とおくとき

- (1) \overrightarrow{AF} を \vec{b} 、 \vec{c} 、 \vec{d} を用いて表せ。
- (2) \overrightarrow{DH} を \vec{b} 、 \vec{c} 、 \vec{d} を用いて表し、比 DG : GH を求めよ。

23 [2012 近畿大]

座標空間において、2 点 A (1, 2, 1)、B (3, 5, 2) がある。直線 AB と平面 $y=8$ との交点の座標は

$$\left(\begin{matrix} \square \\ \square \end{matrix} \right), 8, \begin{matrix} \square \\ \square \end{matrix} \right)$$

である。

24 [2015 甲南大]

ベクトル (3, 2, 4) に垂直で原点を通る平面の方程式を求めよ。

25 [2014 岡山理科大]

3 点 A (0, 1, -2)、B (2, 3, -2)、C (0, 3, 0) について、次の点の座標をそれぞれ求めよ。

- (1) $\triangle ABC$ の重心 G
- (2) 3 点 A、B、C から等距離にある xy 平面上の点 D
- (3) (1) で求めた G と (2) で求めた D に対して、線分 GD を 1 : 3 に内分する点

26 [2005 早稲田大]

座標空間内に xy 平面と交わる半径 5 の球がある。その球の中心の z 座標の値が正であり、その球と xy 平面の交わりが作る円の方程式が

$$x^2 + y^2 - 4x + 6y + 4 = 0$$

であるとき、その球の中心の座標を求めよ。

27 [2002 早稲田大]

座標空間に 2 点 A $\left(\frac{1}{2}, -\frac{3}{2}, 1\right)$ 、B (2, 1, -3) がある。原点を O として、次の問いに答えよ。

- (1) $\angle AOB$ の大きさを求めよ。
- (2) $\triangle OAB$ の面積を求めよ。
- (3) 2 点 A、B を通る直線と yz 平面との交点 P の座標を求めよ。
- (4) 原点 O から 2 点 A、B を通る直線に下ろした垂線を OH とするとき、H の座標を求めよ。

28 [2017 センター]

座標空間において 4 点 A (2, 0, 0)、B (1, 1, 0)、C (1, 0, 1)、D (x, y, z) を考える。

- (1) 三つのベクトル \overrightarrow{DA} 、 \overrightarrow{DB} 、 \overrightarrow{DC} について

$$\overrightarrow{DA} \cdot \overrightarrow{DB} - \overrightarrow{DB} \cdot \overrightarrow{DC} = \square \text{ ア} \dots\dots \textcircled{1}$$

$$\overrightarrow{DB} \cdot \overrightarrow{DC} - \overrightarrow{DC} \cdot \overrightarrow{DA} = \square \text{ イ} \dots\dots \textcircled{2}$$

である。ア、イ に当てはまるものを、次の ㉠～㉣ のうちから一つずつ選べ。ただし、同じものを選んでもよい。

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| ㉠ $x - y - 1$ | ㉡ $y - z - 1$ | ㉢ $z - x - 1$ |
| ㉣ $x - y$ | ㉤ $y - z$ | ㉥ $z - x$ |
| ㉦ $x - y + 1$ | ㉧ $y - z + 1$ | ㉨ $z - x + 1$ |

- (2) $AB = BC = CA = \sqrt{\square \text{ ウ}}$ により、三角形 ABC は正三角形である。以下、4 点 A、B、C、D が、正四面体の四つの頂点になるとする。このときの x、y、z の値を求めよ。ただし、 $x > 1$ とする。

ベクトル \overrightarrow{DA} 、 \overrightarrow{DB} 、 \overrightarrow{DC} の大きさは、いずれも $\sqrt{\square \text{ エ}}$ であり、どの二つのベクトルのなす角も $\square \text{ オカ}$ である。

よって、 $\overrightarrow{DA} \cdot \overrightarrow{DB} = \overrightarrow{DB} \cdot \overrightarrow{DC} = \overrightarrow{DC} \cdot \overrightarrow{DA} = \square \text{ キ}$ となる。

このことと ①、② および $|\overrightarrow{DA}| = |\overrightarrow{DB}| = |\overrightarrow{DC}| = \sqrt{\square \text{ エ}}$ により、

$(x, y, z) = (\square \text{ ク}, \square \text{ ケ}, \square \text{ コ})$ となる。

- (3) $(x, y, z) = (\square \text{ ク}, \square \text{ ケ}, \square \text{ コ})$ のときを考える。線分 AB の中点を P、線分 DA を 1 : 2 に内分する点を Q、線分 DC を $t : (1-t)$ ($0 < t < 1$) に内分する点を R とする。三角形 PQR の面積 S が最小になるときの t の値を求めよ。

$$|\overrightarrow{PQ}|^2 = \frac{\square \text{ サシ}}{\square \text{ スセ}}, |\overrightarrow{PR}|^2 = \square \text{ ソ} t^2 - \square \text{ タ} t + \frac{\square \text{ チ}}{\square \text{ ツ}}$$

であり、 \overrightarrow{PQ} と \overrightarrow{PR} のなす角を θ とすると、 $S = \frac{1}{2} |\overrightarrow{PQ}| |\overrightarrow{PR}| \sin \theta$ なので

$$\begin{aligned} 4S^2 &= |\overrightarrow{PQ}|^2 |\overrightarrow{PR}|^2 \sin^2 \theta \\ &= |\overrightarrow{PQ}|^2 |\overrightarrow{PR}|^2 - |\overrightarrow{PQ}|^2 |\overrightarrow{PR}|^2 \cos^2 \theta \\ &= t^2 - \frac{\square \text{ テ}}{\square \text{ ト}} t + \frac{\square \text{ ナ}}{\square \text{ ニヌ}} \end{aligned}$$

である。

よって、S は $t = \frac{\square \text{ ネ}}{\square \text{ ノハ}}$ のとき最小になる。

29 [2013 センター]

四面体 OABC において、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ 、 $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とおく。 $|\vec{a}| = 2$ 、 $|\vec{b}| = 6$ 、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = 9$ 、 $\vec{a} \cdot \vec{c} = 4$ 、 $\cos \angle BOC = \frac{3}{4}$ であるとする。

- (1) $\cos \angle AOB = \frac{\square \text{ ア}}{\square \text{ イ}}$ であり、 $\sin \angle AOB = \frac{\sqrt{\square \text{ ウ}}}{\square \text{ エ}}$ である。また、三角形

OAB の面積は $\frac{\square \text{ オ}}{\square \text{ キ}} \sqrt{\square \text{ カ}}$ である。

- (2) x を $1 < x < 8$ を満たす実数とし、 $|\vec{c}| = 2x$ であるとする。このとき、四面体 OABC の体積が最大となる x の値を求めよ。

まず、三角形 OAB の面積は x の値によらず一定であるので、四面体 OABC の体積が最大となるためには三角形 OAB を底面としたときの四面体 OABC の高さが最大になればよいことに注意しよう。

実数 s、t に対して、 $\overrightarrow{OD} = s\vec{a} + t\vec{b}$ となるように点 D をとり、 $\overrightarrow{CD} = \vec{n}$ とおく。

$\vec{n} = s\vec{a} + t\vec{b} - \vec{c}$ 、 $\vec{b} \cdot \vec{c} = \square \text{ ク}$ x であるので、 $\vec{a} \cdot \vec{n} = 4s + 9t - 4$ 、 $\vec{b} \cdot \vec{n} = 9(s + 4t - x)$ 、 $\vec{c} \cdot \vec{n} = \square \text{ ケ}$ s + $\square \text{ コ}$ tx - $\square \text{ サ}$ x² となる。

以下では、 $|\vec{n}|$ が、三角形 OAB を底面としたときの四面体 OABC の高さとなるように、 $\vec{a} \perp \vec{n}$ 、 $\vec{b} \perp \vec{n}$ とする。このとき

$$\vec{a} \cdot \vec{n} = \square \text{ シ}$$

$$\vec{b} \cdot \vec{n} = \square \text{ ス} \dots\dots \textcircled{1}$$

である。① により、s、t は x を用いて

$$s = -\frac{1}{\square \text{ セ}} \left(\square \text{ ソ} x - \square \text{ タチ} \right), t = \frac{\square \text{ ツ}}{\square \text{ セ}} (x - 1)$$

と表される。さらに、 $|\vec{n}|^2 = (s\vec{a} + t\vec{b} - \vec{c}) \cdot \vec{n}$ と ① に注意して、 $|\vec{n}|^2$ を x を用いて表すと

$$|\vec{n}|^2 = -\frac{\square \text{ テ}}{\square \text{ セ}} \left(x^2 - \square \text{ ト} x + \square \text{ ナ} \right)$$

$$= -\frac{\square \text{ テ}}{\square \text{ セ}} \left(x - \frac{\square \text{ ニ}}{\square \text{ ヌ}} \right)^2 + \square \text{ ネノ}$$

となる。 $1 < \frac{\square \text{ ニ}}{\square \text{ ヌ}} < 8$ であるので、 $x = \frac{\square \text{ ニ}}{\square \text{ ヌ}}$ のとき、 $|\vec{n}|$ は最大となり、四面体

OABC の体積は最大となる。

30 [2012 センター]

空間に異なる4点O, A, B, Cを, $\vec{OA} \perp \vec{OB}$, $\vec{OB} \perp \vec{OC}$, $\vec{OC} \perp \vec{OA}$ となるようにとり, $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とおく。さらに, 3点D, E, Fを, $\vec{OD} = \vec{a} + \vec{b}$, $\vec{OE} = \vec{b} + \vec{c}$, $\vec{OF} = \vec{a} + \vec{c}$ となるようにとり, 線分BDの中点をL, 線分CEの中点をMとし, 線分ADを3:1に内分する点をNとする。

(1) \vec{OM} , \vec{ON} は, \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて $\vec{OM} = \frac{1}{\text{ア}} \vec{b} + \vec{c}$, $\vec{ON} = \vec{a} + \frac{\text{イ}}{\text{ウ}} \vec{b}$ と表される。

(2) 2直線FL, MNが交わることを確かめよう。 $0 < s < 1$ とし, 線分FLを $s : (1-s)$ に内分する点をPとする。 \vec{OP} は, s と \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて

$$\vec{OP} = \left(\frac{\text{エ}}{\text{オ}} - \frac{s}{\text{カ}} \right) \vec{a} + s\vec{b} + (\text{カ} - s)\vec{c}$$

と表される。 $s = \frac{\text{キ}}{\text{ク}}$ のとき, $\vec{MP} = \frac{\text{ケ}}{\text{コ}} \vec{MN}$ となるので, M, N, Pは一直線上にある。よって, 2直線FL, MNは交わることがわかる。

(3) 2直線FL, MNの交点をGとする。 \vec{OG} , \vec{GF} は, \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて

$$\vec{OG} = \frac{\text{サ}}{\text{シ}} (\text{ス} \vec{a} + \text{セ} \vec{b} + \vec{c})$$

$$\vec{GF} = \frac{\text{サ}}{\text{シ}} (\vec{a} - \text{セ} \vec{b} + \text{ソ} \vec{c})$$

と表される。

$|\vec{a}| = \sqrt{5}$, $|\vec{b}| = 4$, $|\vec{c}| = \sqrt{3}$ とする。このとき, $|\vec{GF}| = \text{タ}$, $|\vec{GM}| = 2$ となる。

次に, 直線OC上に点Hをとり, 実数 t を用いて, $\vec{OH} = t\vec{c}$ と表す。

$\vec{GF} \cdot \vec{GH}$, $\vec{GM} \cdot \vec{GH}$ は, t を用いて

$$\vec{GF} \cdot \vec{GH} = \text{チ} t + \frac{\text{ツテ}}{\text{ト}} \dots\dots ①, \quad \vec{GM} \cdot \vec{GH} = 2t + \frac{10}{3} \dots\dots ②$$

と表される。

さらに, $\angle FGH = \angle MGH$ とする。このときの t の値を求めよう。

$|\vec{GF}| = \text{タ}$, $|\vec{GM}| = 2$ と $\angle FGH = \angle MGH$ であることから

$$\vec{GF} \cdot \vec{GH} = \frac{\text{ナ}}{\text{ニ}} \vec{GM} \cdot \vec{GH} \dots\dots ③$$

が成り立つ。①, ②, ③から, $t = \frac{\text{ヌ}}{\text{ネ}}$ である。